

第2回カツオ資源調査・保全分科会メモ

日 時 平成29年6月5日(月) 12:00 ~ 14:00

場 所 高知大学 地域連携推進センター 2Fセミナー室

出席者 受田座長、山崎副座長、千頭副座長、市川(事務局) 外 資料1

<配付資料>

第1回カツオ資源調査・保全分科会議事録

第2回カツオ資源調査・保全分科会参画予定者リスト

高知県水産振興部漁業振興課 梶 達也チーフ「高知県におけるカツオ漁業の現状」資料

<協議題>

- (1) 座長挨拶 第1回分科会の議事録の確認を行った。
- (2) 分科会メンバーの紹介 今回から出席されたメンバーの紹介を行った。
- (3) 講演 高知県水産振興部漁業振興課・梶チーフ「高知県におけるカツオ漁業の現状」

【座長メモ】高知県民とカツオとの特別な関係をご紹介頂いた上で、まず太平洋におけるカツオの分布と産卵場、最新型標識によるカツオの推定北上経路が解説された。日本及び高知はカツオの来遊の縁辺部であるのがポイント。中西部太平洋における国別漁獲量の推移は大変印象的であった。日本はインドネシア、フィリピン、台湾、韓国、米国と共に、高い漁獲量を有する。1980年代から熱帯水域の漁場の開発が進み、漁獲量が急増。竿釣中心の漁獲から巻き網が急増し、1990年代には100万トン前後、2014年には199万トンに達した。しかしながら2015年には183万トンに減少(資源が減少している懸念も)。これに対応して高知県のカツオ漁はどうなったか。沿岸竿釣による水揚げは減少。特に2013年頃から特に落ち込む。引き縄漁業による水揚げは2003年頃から減少。その傾向は2013年頃からさらに顕著に。一般に生物の分布は資源量と共に縮小し、分布の縁辺部で資源豊度は減少する。したがって熱帯・亜熱帯域の資源状態が縁辺部である我が国周辺へのカツオ来遊に大きく影響しているのではないか。さらに詳細な分析から、上記引き縄漁業による漁獲量が顕著に減少した時期は、カツオの初期資源量が60%を下回り、さらに急激にその値が低下する傾向と一致している。そこで高知県としてはカツオ資源の実効ある管理措置として、初期資源量の60%(現在は48%)の早期回復を国に政策提言している。一方、WCPC(中西部太平洋マグロ類委員会)では50%まで回復させることの合意に留まっている。さらに県は、「中西部太平洋におけるカツオの大量漁獲を抑制するため、我が国が率先して具体的な管理措置を構築すると共に、調査を強化し、国際交渉の場で科学的なデータに基づいた交渉を継続することにより、長期管理目標を引き上げるよう提言」している。最後に、中西部太平洋におけるカツオの漁法別漁獲分布と漁法別サイズ別漁獲量との関係が紹介された(出典は水産

庁・水研センター)。西部熱帯域(インドネシア・フィリピン)の無視できない漁獲量とその地域における小規模な巻き網漁法が20 cmから50 cmの未成熟個体を中心に水揚げしていることが示された。この水域が我が国の黒潮ルートの上流域に当たるため、この海域での小型の個体の水揚げを規制できれば我が国への来遊を回復させることができる可能性が示唆された。この内容を本分科会で提言に盛り込むことについて、今後検討を重ねることとした。

(4) ディスカッション 主な質問とコメントについて列挙する。

- ・ここまでデータが得られているとは驚いた。
- ・マグロの資源管理についてはWCPFCでどのように議論されているのか。資源管理の手法や正確さはカツオと同じか。
- ・初期資源量の推定は正確なのか。
- ・日本以外の国は資源量についてどう評価しているか。
- ・カツオの回遊ルートは昔から変わっていないのか。
- ・インドネシア・フィリピンで水揚げされている小型のカツオの市場は日本か。
- ・資源管理の効果はどの程度の時間で確認されるのか。漁獲を一年控えたら翌年には結果が出るのであれば、費用をかけてでも実験する価値はあるのではないか？
- ・全体での資源管理には無理がある。日本近海の特異性に着目すべきでは。
- ・すでにこれ以上のデータ蓄積を目指す段階は過ぎているという指摘があり、ともかく何らかの資源保護に向けた実行が求められていると思う。
- ・太平洋西南端域の特殊巻き網で20センチ程度の1年以下のカツオも根こそぎ捕獲していることが日本西南近海の漁獲に影響しているかどうかを、両者の漁獲データを動画化することで視覚化検証できないか？

(5) その他 本日の講演内容やディスカッションを通じて、次回の分科会では水産庁・神谷課長から、「資源管理のデータが有する信頼度」「水産庁が有する資源に関するデータ」「フィリピン・インドネシアにおける小型巻き網による漁獲圧が日本沿岸のカツオ資源に与える影響」についても伺うこととした。

(6) 次回分科会の開催 第3回分科会を平成29年7月3日12時から高知大学地域連携推進センターにて、水産庁神谷課長をお迎えして開催することとした。なお神谷課長からは上記(5)に加えて、水産庁が実施している調査事業の内容や今後の取組みなども含めてご講演をお願いする。また第4回分科会の内容は神谷課長のお話を踏まえて次回に協議することにした。